

2年3組 英語科 学習指導案

日 時 平成25年10月11日(金) 第5校時

学 級 2年3組(男子15名、女子15名、計30名)

場 所 図書室

授業者 教諭 犬塚 太一

A L T Christopher Jenkinson

教科支援員 松尾 礼子

1 単元名「to不定詞を活用したドリル&タスク活動」

2 単元について

(1) 教材観

Sunshine English Course 2(開隆堂)のProgram 6 A Work Experience Program の中では「to不定詞」を学習する。これまでは前置詞 to だけで「to+(代)名詞」の形式に慣れれば良かった。本課では「to+動詞の原形」という形式が大きなポイントとなる。

また、生徒たちが職業体験を通して自分の将来したいことと夢の実現に向けてすべきことを語り合う本課の内容は、「to不定詞」の使用と密接に関わっている。「to不定詞」の理解と運用を通して、自分の願望や要求を表現できるように指導したい。

「to不定詞」は3つの用法に分けられる。名詞的用法は主に動詞の目的語になる場合を取り上げている(例:I want to go to the movies.)。副詞的用法では「~するために」という目的を表す働きを取り上げている(例:I went to the park to play basketball.)。形容詞的用法では名詞がその動詞の目的語になっているものを取り上げている(例:I want something hot to drink.)。セクション毎の到達目標は以下の通りである。

- § 1 自分のしたいことが言えるようにする。
- § 2 行動の目的を言えるようにする。
- § 3 何をするための物が言えるようにする。

「to不定詞」の3用法を会話の中で、より自然な流れで使用するためには次のように再構築する必要がある。

- § 3 I want something hot to drink. (行動の対象をぼかして表現)
- § 1 I want to drink apple tea. (行動の対象を具体化して表現)
- § 2 I went to the tea shop to buy an apple tea. (行動の目的を表現)

これを飲食物の売買が伴うタスクの中に落とし込めば、大変興味深い言語活動が実現できると考える。ただし、このうち§1については実際の売買の場面では使用されないのを除く。

(2) 生徒の実態

平成25年度学習状況調査での本校の実態は、英語での問いかけに応答、英語を聞いたり読んだりして概要・要点を理解、詳細を理解することは非常に高い正答率だったのに対し、語順正しく書くのがやや苦手である。

(3) 指導観

中学2年生で習う文法事項の中で、最も重要かつ使用頻度の高いものの1つが「to不定詞」である。「to不定詞」は従来の文法では名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法の3つの用法に分けて説明されるものであった。しかし近年の研究成果（認知文法や認知意味論）によって「to不定詞」の解釈が再構築され、ネイティブが捉える世界（概念化の過程）をそのまま学習できるように工夫する試みもなされている。幼児が英語をそのまま身体で覚えていくのと対比して、中学生以降は頭で納得していくことも必要である。3用法を理解しながらも、3用法に共通する意味（イメージ）を掴むことが、会話における有用性（usability）を広げ、相手とのやりとりの中で積極的に使おうとする豊かなコミュニケーションの土台となる。

普段の授業では、文法事項を各々の活動場面に応じて使用することに主眼が置かれ、体系的に使用する機会が少ない。特に「to不定詞」について言えば、3用法を別個の活動で扱うのみである場合が多い。しかし、それぞれの果たす役割は異なるものの、前置詞 to が表している「ゴール（目的地、目的）に向かって」という意味（イメージ）で共通している。まずはそれぞれに共通する意味をイメージ化して捉えやすくする工夫を施す。

その上で、ドリル活動によって正確さ（accuracy）と流暢さ（fluency）の両面を鍛えつつ、3つの用法を「使い分けつつ使い切る」タスク活動が必要である。

イメージ化による理解 → ドリル活動による定着 → タスク活動による応用

今回扱うタスク活動は、カードを使用する擬似的コミュニケーションだが、「to不定詞」を使用した、より発展的なコミュニケーションが期待できる。またお互いが協力し合うことで、商品の売買というタスクを達成するだけでなく、生徒同士の密なインタラクションを促すことができる。さらに3人（JTE2人とALT）によるチームティーチングを機能させるためには、3人それぞれが3用法を1つずつチェック、評価できるようにタスク自体を調整すれば良い。

カードを見て正確に、流暢に表現するだけでなく、カードを見て瞬時に表現できる瞬発力も会話では必要である。相手を待たせず（沈黙を作らず）、スムーズに要求される表現を伝える力も言語力のひとつと位置づけられるだろう。その意味で、ドリル活動の重要性を強調したい。さらに、タスク活動での商品の売買では自由な発話が期待できる一方、「to不定詞」の3用法を確実に使用させるように工夫したい。最終的には、教室において目的や目的地を作り出すことで、前置詞や不定詞のtoの持つニュアンスを感じ取らせたい。

3 単元の目標・単元の評価規準

- ・間違いを恐れずに積極的にコミュニケーションをはかろうとしている。
- ・to不定詞を使って英語で伝えることができる。
- ・聞いた内容について正しく聞き取り、英語で適切に応じることができる。

評価の観点	評価規準	
Ⅱ 表現の能力	S	・ to不定詞を使って正確に表現することができる。 ・ to不定詞を使って流暢に表現することができる。
Ⅲ 理解の能力	L	・ 聞いた内容について正しく聞き取ることができる。 ・ 使われた表現によって適切に応じることができる。

4 指導計画（3時間扱い）

時	内 容	留意点
1	プレトレーニング① (Pair Work&Individual) Shopping の場面練習	ア・イ
2	プレトレーニング② (Pair Work&Individual) WGG	ウ
3	To 不定詞の総復習 WGG タスク活動 (Shopping)	エ

《留意点》

- ア カードを使用しながらペアや個人で表現し定着できるようにトレーニングをする
- イ Shopping で使用する表現を総チェックする
- ウ WGG (Word Guessing Game) To 不定詞編の導入
- エ 本時

5 「教育に関する3つの達成目標」との関連

2の(2)でも触れたように、本校の生徒は語順正しく書くことが苦手である。英語の語順は日本語に比べてはっきりと規則がある。その語順を正しく表現できることは英語力の中でも鍵となる重要な能力である。しかし、ただ頭で理解しただけではすぐに表現できない。理屈で理解すると同時に、理屈抜きに言葉が自然と出るような回路を作らねばならない。口頭によるドリル活動を行うことで、表現の駒を自動化し、最終的には語順正しく書く力を養えるように繋げていきたいと考えている。

6 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ・ To 不定詞を使って正確に流暢に表現することができる。
- ・ Shopping の場面で飲食物を英語で売買するやり取りができる。

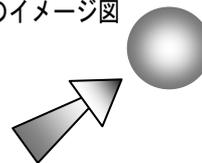
(2) 本時の展開

	学習内容 (生徒の活動)	JTE1の指導	ALTOの指導	JTE2の指導	□留意点 ◎O評価 ◆用具 ◎総括的評価 ○形成的評価
導入 5分	1 あいさつ 2 歌				◆iPad (英語歌の動画)
展開 40分	3 To 不定詞の復習 (イメージ画像による3用法の練習) ★ to の持つ意味を体系的に学ぶ。 ★ イラストを見てイメージしながら音読練習をする。	コンピュータによる説明をする。	音声指導を行う。	JTE1の補佐をする。	◆iPad (Keynoteによる図示) □視覚的に訴えることで to の表す意味を掴めるように工夫する。 □例文は簡素で分かりやすいものを選ぶ。 □動画を入れることで生徒の関心を引きつけるように工夫する。

例

I go school every day.
I want eat a hamburger.
I went the library study.
I want something drink.

to のイメージ図



《前置詞・不定詞の to を図式化》

展 開 40 分	4 ペア活動 (WGGの中でto不定詞表現を用いる) ★ to不定詞の形容詞的用法を復習する ★ 下線のto不定詞表現で始める。 ★ ヒントを英語で出し続けてもよい。英語で質問してもよい。	活動の説明を行う。 列1、2を担当しチェックする。	活動のやり方を見せる。 列3、4を担当しチェックする。	活動のやり方を見せる。 列5、6を担当しチェックする。	◆iPad (Keynoteによる絵、写真) □ペア活動では、笑顔でHigh-fiveを基本とする。 ・活動の観察 絵や写真を見て正確に英語で伝えることができる。【表現】 英語を使って積極的に活動を続けている。【関心】
	5 タスク活動 (to不定詞を活用したShopping) 使用するto不定詞の表現は2つ： ①I want something (hot / cold) to (eat / drink). ③I went to _____ to buy (a / an)_____. ★ クラスを半分にして店側と客側に分かれる。 ★ 以下の手順で行う。 ・指示カードを引いて①を言ってお金をもらう ・英語で売買を行う。 ・どこに行って何を購入したか②の報告をする ・再びカードを引く	活動をやってみせる。 教室の椅子・机の配置を変え、活動の準備をする。	活動の説明を行う。 お店付近で見まわる。 英語できちんと売買を行っているか確認する。 工夫している点进行评估する。	活動のやり方を見せる。 ボックスコーナーに待機する。 生徒は指示カードを引いたら①の表現を使って伝える。 指示カードを引かせる。	活動のやり方を見せる。 チェックコーナーに待機する。 生徒は商品を受け取ったら②の表現を使って伝える。 カードを確認する。
ま と め 5 分	6 整理・振り返り 7 あいさつ	ポイントとなるto不定詞の表現を織り交ぜながら、整理して振り返られるように工夫する。 元気よくあいさつする。			

(3) 本時の評価

- ・ Shoppingの場面で飲食物を英語で売買するやり取りができる。
- ・ To不定詞を使って正確に流暢に伝えることができる。・・・※

※6(2)4のペア活動では形成的評価

6(2)5のタスク活動では総括的評価(言える…1点/正確に流暢に言える…2点)

最大値2点を取得するまでJTE2にチェックを受ける。

